

# まきは

## 「王衣を脱ぐ」

「このことがニネベの王に伝えられると、王は王座から立ち上がり、王衣を脱ぎ、粗布を身にまとい、灰の上に座った。」

(ヨナ書 第3章6節・旧約聖書1427頁)

はじめに

ご存じのようにアッシリアは北イスラエル王国を滅ぼし、その勢いで南ユダ王国にも攻め込んできた国であることが知られています。一時期はエジプトも脅威を感じていた恐れていたこの時代、BC750～700年がアッシリアの全盛期です。ヨナが活動していたのはその直前だとされています。今回は、このアッシリアに注目し、私たちの神への姿勢を確認したいと思います。

不安定さ

アッシリアの首都であったニネベはティグリス川の中流域、現在のイラクのモスルという町の近くにありました。メソポタミア文明が起こったことで、当時の中東地域は高度な文化を背景に都市国家が生まれ、その中でせめぎ合いながら、アッシリアも力を増していきます。ヨナ書に出てくるアッシリアは中東の勢力地図にわって入ってこようとする新興国でした。

権力者はなかなか耳を貸さないものですが、当時のアッシリアの王は、ヨナの宣教によってニネベの人々が神を信じたことを聞き、それを弾圧するのではなく、自らも神を信じ、それを国中に徹底させました。なぜニネベの人たちは「こうも簡単に」神を受け入れたのでしょうか。

「あと40日でニネベは滅びる」。この言葉が当時の人々に実感として受け入れられたと考えられます。当時の王権がまだ確立されておらず、不安定だったことに加え、飢饉や日食などの天変地異などが起こっていたと想像できます。

心に刻む

誰もが将来に不安を抱えています。特にそこに立ち向かっていこうとする時、自分に自信がない場合には、そこから進むこともできなくなります。何をやっても裏目にでてくる。暗礁に乗り上げ、もがいてももがいてもうまくいかない。さらに周りに理解者もおらず、孤独感が増してくる。周囲の力に押しつぶされていき、自分が消滅していきそうな感覚もあります。実は、それがアッシリアの王の内面でした。

王衣を脱ぐ

そのような私に、神は言葉を与えられます。神はヨナを遣わしてニネベに向かわせました。ニネベを覚えてくださっていたからです。その御心に応え、神を受け入れるべきです。神の言葉はその人の人生を輝かせます。

どうすればいいのでしょうか。この王のように、「王衣を脱ぐ」べきです。すべて自分の握っていたものを神の前に差し出し、自分のこれからの道を委ねるのです。ヨナはどうでしたか。この書の前半は、神の前での態度を対比させています。神の言葉に逆らい、自分の我を貫こうとする人生は、けっしてうまくいきません。「粗布を身にまとう」ことです。つまり、「心を貧しくする」、潔いほどに心にある我をなくし、神にすがることなのです。主イエスが「心の貧しい人々は、幸いである。天の国はその人たちのものである」(マタイ5:3)と言ったのはそのためです。

【礼拝説教はスマホでも視聴できます】  
右記のQRコードを読み取ってアクセスしてください。



## 今週の祈り

「ヨナはまず都に入り、一日かけて歩き、『あと四十日で、ニネベは滅びる』と告げた。すると、ニネベの人々は神を信じ、断食を呼びかけ、大きな者から小さな者に至るまで粗布をまとった。このことがニネベの王に伝えられると、王は王座から立ち上がり、王衣を脱ぎ、粗布を身にまとい、灰の上に座った。」(ヨナ書 3:4～6)

「心の貧しい人々は、幸いである天の国はその人たちのものである。」(マタイによる福音書 5:3)

アッシリアの王がどのような毎日を過ごして



いたのか、考えさせられました。決して順調ではなく、むしろ、自分の政治力に不安を抱き、国内外もうまく収められず、自信を失っていたのでしょう。それに加えて天変地異などもあったと聞きました。そのような中、神さまは異邦のために憐れまれているのです。私の心の不安をもご招致の神さまは、根部のように、私を憐れみ、御言葉を書けてくださるのですね。感謝です。私はそれに応え、王衣を脱ぎ、心を貧しくして、あなたを受け入れます。どうぞ天の国の祝福をお与えください。御名によってお祈りいたします。アーメン。

## 深読みにチャレンジ!

### 箴言 (54) 第3章15節

\*三つの違う訳を読み比べてみましょう。

◎協会共同訳 「知恵は真珠よりも貴く どのような財宝もこれに並びえない。」

◎口語訳 「知恵は宝石よりも尊く、あなたの望む何物も、これと比べるに足りない。」

◎新改訳 「知恵は真珠よりも尊く、あなたの望むどんなものも、これとは比べられない。」

### 「真珠」

先回の文章中、訂正させていただきたい部分がありました。「当時は金よりも銀のほうが価値があったので、銀が先に出てきていますが、…ソロモンの時代(約 BC950年)には金銀が相当の価値を含み、流通していました。」と解説しました。確かに、初期には銀の価値が優先していたのですが、「ソロモンの時代には、銀は価値あるものとは見なされていなかった」(列王上 10:21)との記述を発見し、少なくともソロモン自身は銀よりも金に価値を見いだしており、豊臣秀吉のように金を好み、すべての装飾に取り入っていたのです。申し訳ありませんでした。

さて、知恵、つまり、神を畏れることから始まる生き方の尊さを例えている箇所ですが、「金銀」の次は「真珠」を挙げています。

ソロモンのもとには世界中から貴重品が集まってきました。金銀、象牙といった財宝だけ

### 【神からの知恵によって生きる】

箴言はソロモンが語った知恵の言葉を中心に構成されています。31章から構成されていますが、あたかも短編を読んでいるかのように、種々雑多な知恵の言葉が連なっています。ソロモンが思いつくままに語った言葉を、そのまま筆記したのではないかと思えるほどです。

この書このような性格上、まとめて解説するのが難しいため、この欄で、一つ一つの言葉をじっくり味わいたいと思います。箴言から得る知恵によって、深みのある生き方を学び、よりよい人間関係を築かせていただきたいと思います。

- 1 父から子へ・受け継がれるべき知恵 (1:1～9:18)
- 2 生活の処方箋・知っておくべき知恵 (10:1～22:16)
- 3 先人からの知恵 (22:17～31:31)
  - a 知恵ある人の言葉 (22:17～24:34)
  - b ソロモンの言葉 (25:1～29:27)
  - c アグルの言葉 (30:1～33)
  - d レムエルの言葉 (31:1～31)

ではなく、「ひひや猿」(列王上 10:22)なども集まってきていました。ですから、真珠もそのような貿易品として入ってきていたのでしょう。

当時、人工真珠の技術はないわけで、すべてが天然です。ペルシャ湾、またインド南西海岸で取れていた非常に希少な高級品で、ソロモン時代より1000年以上前のメソポタミア、インダス文明ではすでに高価な装飾品となっていました。そのようなことを考えると、「豚に真珠」(マタイ 7:6)とか「全財産と真珠の交換」(マタイ 13:46)のたとえの深みが伝わってきます。

## 聖書日課

毎朝、決められた時間に聖書を読み、お祈りをするのはクリスチャンの生命線です。この聖書日課を使って心の糧を欠かさないようにしましょう。そのために最低でも15分間を神との交わりのために聖別してください。

朝にどうしても時間のとれない方は、昼休みでも就寝前でもかまいません。ぜひ、実行してください。

### 【祈りの時の持ち方(例)】

- ①まず黙想し、次に、自分の心を神に向けるために賛美する。賛美曲を歌えない場合は、歌詞を味わう。
- ②御言葉を読み、自分へのメッセージが何かをさぐる。例えば、神の恵み、告白すべき罪、従うべき命令、ならうべき模範など。
- ③自分が神のメッセージにどうこたえるのかを祈る。感謝や信頼の表明、悔い改め、服従、献身など。
- ④自分の祈りだけでなく、できるだけ「祈禱課題」も祈る。

**【月曜日】** ◆今週のすべての集会在祝福され、救いにつながるように祈りましょう。

民数記第29章1節「第七の月の一日に、あなたがたは聖なる集會を開く。あなたがたはどのような仕事もしてはならない。それは角笛を響かせる日である。」◆角笛(ラツパ)が吹かれたのは、私たちの魂を呼び起こすためである。それは神の前に出るべき時のしるしであり、すべての手のわざをやめるべき時のしるし、さらには神に自分の身を献げていく決意表明の時のしるしだった。私たちは礼拝を始め、神の恵みの場所に参ずるべく、角笛の音によって招集されている。その時を逃したならば、恵みをいただく機会は失われるのだと心に刻みたい。

●賛美 / 277 ●祈禱課題

◆昨日、礼拝に集えなかった人が恵みからもれないように。

◆この教会も世界宣教の一拠点であることを自覚し、重荷を持って祈れるように。特に共産圏、イスラム圏伝道が進むように。迫害にある宣教師のために。現地語聖書の翻訳が進むように。異端からの救出が進むように。台湾活水泉の活動のために。

**【火曜日】** ◆教会のビジョンのため、将来の働きが祝福されるように祈りましょう。

民数記第30章3節「人が主に誓願を立てるか、もしくはその身に物断ちの誓いをした場合、その言葉を破ってはならない。自分の口から出たことをすべて、そのとありに行わなければならない。」◆当時は文字を書く道具もなかったわけだから、言葉には重みがあった。特に誓約の言葉には拘束力があり、簡単に破ることはできなかった。破ることは信頼関係が崩れることを意味していた。私たちの祈りの言葉もまた、神との信頼関係の中で献げられている。だから、神は私たちの祈りにお答えくださるのである。私たちも真実をもって神に答えていきたい。

●賛美 / 278 ●祈禱課題

◆日本福音同盟、日本福音連盟、聖化交友会、キリスト教各出版社、EHC、ケズィック、太平洋放送協会、F E B C、キリスト者学生会、日本国際飢餓対策機構、ワールド・ビジョン、いのちの水計画、総動員伝道、Hi-b.a.、日本国際ギデオン協会(聖書配布)、新生宣教団等の働きとスタッフのため。

**【水曜日】** ◆宣教福祉事業が祝福されるように祈りましょう。

民数記第31章2節「ミデヤン人に対してイスラエル人の復讐を果たしなさい。その後、あなたは先祖の列に加えられるであろう。」◆モーセがエジプトにいられなくなって逃げ、たどりついた先はミデヤンの荒れ野だった。モーセの妻や義父エトク(異教の祭司)はミデヤン人だった。そのためか、寛容になっていたのかもしれないが、彼らは神の民を偶像礼拝に引き込んだ。これは神の民の信仰を大いに鈍らせるもととなった。だからこそ、神の民として立つために、その隅に残る罪を根絶させる必要があった。あなたの心にミデヤンはないか。

●賛美 / 279 ●祈禱課題

◆新会堂が与えられるように祈りましょう。①バス通りに面した場所に良い土地が与えられるように②十分な資金が与えられるように③早期に建てられるように

◆宗教法人を取得できるように

◆伝道の拠点が祝福され、用いられるように。(まきば、小山宮下事務所、向陽町)

【木曜日】◆弱っている方々、病にある方々のために祈りましょう。

民数記第32章18節「私たちは、イスラエルの人々がそれぞれの相続地を受け継ぐまで、決して私たちの家には戻りません。」◆イスラエルにはそれぞれに相続地が与えられたが、攻め取らなければならぬものだった。ヨルダン川の東のルベン、ガド、マナセ(半部族)は最初に約束の地を確保できた。だから、もう戦う必要はないのだが、その後も、他の部族のために転戦し続ける。それは、自分たちの相続地を得るために、すべての部族が参戦していたからだった。自分だけに固執せず、多くの人に支えられていることを考えた行動をしたい。

●賛美 / 280 ●祈禱課題  
◆教会学校の成長と救い、青年の結婚、教会員の信仰の成長と家族の救いのため。  
◆教会ビジョンのため(社会宣教事業、伝道所の開設、保養施設建設、会堂建築、納骨堂、宗教法人格取得、学生寮、高齢者住宅)、教会員から伝道者や献身者が与えられるよう、教会会計の祝福

【金曜日】◆礼拝出席平均が50名以上となり、受洗者が年間3名以上与えられるように祈りましょう。

民数記第33章2節「モーセは主の言葉に従って、旅路に沿って、そのつど出発した所を書き記した。その出発した所によると、彼らの旅路は次のとおりである。」◆彼らは40年間、荒野で出発と宿営を繰り返した。それは自分たちの意思ではなく、主の御心に従うことであった。人間的に考えたならば、なぜこのように多くの日を繰り返したのか理解できない。最短なら1カ月もしないで目的地に着けるからだ。だが、彼らには霊的な成長が必要だった。その点で、彼は最短で最善の道を行ってきたと言える。見えるところでなく、信仰によって歩もう。

●賛美 / 281 ●祈禱課題  
◆この教会に聖霊の著しい働きがもたらされ、リバイバルが起こるよう。常に新来会者が与えられ、求道者、受洗希望者がもたらされて、教勢が祝福されるように。  
◆土屋牧師、淳子師(牧師一家)、思乃扶師、石出師の働きのために。  
◆老齢の方、病の中にある方々のいやしのために。

【土曜日】◆聖日に備え、健康が保たれ、出席しやすい天候が与えられるように祈りましょう。

民数記第34章2節「イスラエルの人々に命じてこう言いなさい。あなたがたが入ろうとしているカナン(カナンの)地、すなわち、相続地として与えられるカナン(カナンの)地の境界線は、次のとおりである。」◆神は各部族の相続地を定められた。約束の地といっても広く、さまざまな環境の違いがあるので均一ではない。当然、もっと良い地がほしいとか、狭すぎるといった不満もなかつただろう。しかし、口が自分の意思で選択した地で、祝福されて生活できただろうか。アブラハムは損をしただろうか。私たちにそこで生きるとおっしゃる神の、御心を知ることが第一である。

●賛美 / 282 ●祈禱課題  
◆子どもを含め、すべての人が礼拝を守れるように。あらゆる集会が祝福され、参加者が御言葉によって取り扱われるように。奉仕者が恵まれてご用にあたれるように。  
◆ホームページが用いられるように。また礼拝動画が用いられるように。教会から出している週報や印刷物が用いられるように。

【日曜日】◆新来会者が起こされるように祈りましょう。

民数記第35章11節「幾つかの町を設けなさい。そこは逃れの町であり、過って人を殺した者はそこに逃げ込むことができる。」◆事故で人を殺してしまったり、家族の報復のために殺人を犯した者に対しては、レビ人が律法にてらして判断をくだすまで、逃れの町で保護された。私たちは弱く、神を信じていても、罪を犯しやすい。しかし、罪を犯したからといって、直ちに罰せられるということはない。主イエスが私たちの逃れの町だからだ。主のもとに逃げ込み、悔い改める機会が与えられている。だから、開き直ったり、諦めてはならない。失望してはならない。

●賛美 / 283 ●祈禱課題  
◆この教会に連なるすべての方々が聖日礼拝を厳守できるように。聖書通読を続けられるように。御言葉を味わえるように。祈りに励めるように。ささげる恵みにあずかれるように。積極的に神さまから受けた恵みを語れるように。  
◆受験生、就職活動者、試練にある者のために。



# おやごでせいしよ

## ●きょうのせいしよ

【しゅつエジプトき 7:1~12:42】

「すぎこし」

(しゅつエジプトき 12:13)

モーセは かみさまから しめいを たくされて、エジプトに むかいました。いぜん、じぶんの ちからに たよって たすけたそうとして、しっばいしましたが、こんどは かみさまの ちからを いただき、かみさまが ともにおられるとの やくそくを いただきました。でも、きっと、きんちょうしたことでしょう。

ファラオの まえにたった モーセは「ヘブライじんたちを エジプトから じぶんの くにに かえらせてほしい」といいました。ところが、ファラオは そのことばを きいて、あいてにしませんでした。なぜなら、エジプトにいるヘブライじんの かずは おとこのおとなのひと、つまり はたらくことができる ひとたちが、60まんにんも いて、エジプトの くにのために、はたらいていたからです。

もちろん、ヘブライじんたちは、エジプトの

ために はたらくつもりはないのですが、いうことを きかなければ ころされてしまう、そんな どれいになっていました。その ヘブライじんをつかって、くにをおおきくしてきたので、ファラオは ずっと どれいのまま つかおうとおもっていたのです。

モーセは かみさまが いわれたように、エジプトに さまざまな わざわいをもたらしました。そのたびに ファラオに「ヘブライじんを ふるさとに かえしてください」といいましたが、だめでした。でも、もんに こひつじの ちを ぬったひとは まもられ、そうでないひとの いえは あととりが しんでしまう という 10ばんめの わざわいを くだしたとき、ファラオの こどもも しんでしまったこともあり、「でていけ」といわれたのでした。

このことは、イエスさま じゅうじかをおしえるものとなりました。つみの どれいになった わたしたちは こひつじとなられた イエスさまの ちをしんじることによって、すくわれるのです。

## ●かんがえてみよう

☆モーセは かみさまから どこにいくように いわれたのですか。(しゅつエジプト7:1)

☆いえのいりぐちに ちを ぬった いえは どのようになるといわれました。(しゅつエジプト7:13)

☆このできごとをおぼえるために ぎしきをおこなうように いわれたのですが、そのとき、こどもたちになんといえといわれましたか。(しゅつエジプト12:27)



# なみむ聖書

## もじ独

あいているマスに、右の9文字のどれかを入れます。タテ列（9列あります）、ヨコ列（9列あります）、太線で囲まれた3×3のブロック（それぞれ9マスあるブロックが9つあります）のどれにも9文字のいずれかがはいりませんが、文字が重なってはいけません。数独と同じ要領です。

えじぶこのちをうつ

		と	じ	う		ち	ぶ	
		ち				の		
え	じ		の	つ	ち		う	と
ぶ	え	の		じ				
ち	う			を	ぶ	と	つ	の
			ち		う		じ	え
				ち				を
と	の		つ	ぶ	じ		ち	う
つ		う	を	え	の		と	

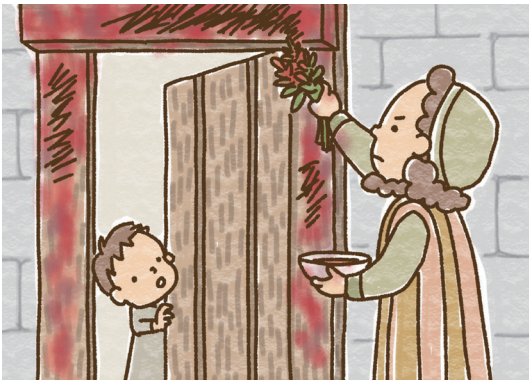
ことばあそび

今週の聖書箇所の中に出てくる言葉です。それぞれを並び替えると意味が通る言葉になります。答えてください。

- ① はさんだくるを
- ② にしんのほらは
- ③ しんばなたね
- ④ ゆれうぐ

## まちがいさがし

3つあるよ!さがしてね





## 牧師の 聖書 ななめ読み

「せんべい」

入れ菌になってから、壊れはしないかと心配で、あまり硬いものを食べないようにになりました。肉などもかみ切れないので警戒していますが、おせんべいなども硬いものは敬遠し、そうでないものは小さくしてから食べるようにしています。

日本で人気があるおせんべいと言ったら、何を挙げますか？いろいろな調査があるので一概には言えませんが、その多くで第一位となるのが「歌舞伎揚」（天乃屋）だそうです。私も納得です。そのほか「ば

かうけ」（栗山米菓）、「雪の宿」（三幸製菓）、柿の種（亀田製菓）などが上位に入ります。

私が学生時代、マナは「コエンドロの実のようで白く、その味は蜜を入れたせんべいのものであった。」（出 16:31・口語訳）とあったので、一瞬、甘塩っぱいあられのような「マナ」を想像してしまったことがあります。今日は「歌舞伎揚」、今日は「柿の種」なんて、保育園のおやつみたいなきもちになっちゃったりして。お菓子じゃ、民たちの健康状態は保たれません。誤解もありますし、協会共同訳では「薄焼きパンのような味」（形ではない）としています。

ちなみに口語訳ではせんべい職人も出てきます（歴代上 9:31）。協会共同訳では「焼き菓子職人」に転職しているのがおもしろいです。

## 聖書ふれあい街歩き

### ●ヘト人の地

「カナンは呪われよ」「カナンはセムの僕になる」。このノアの預言が実現されていったのが、イスラエルのカナン入植でした。カナンは総称で、その中に「カナン人、ヘト人、アモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人」（出 3:17）が住んでおり、カナン人は現在のイスラエルの北部を中心に住んでいたと考えられます。

次にヘト人ですが、AD1700頃、現在のトルコ中部を治めていたヒッタイト帝国の末裔とされています。ここに登場する「ヘト人」は、ヒッタイト帝国が崩壊した後、シリアやレバノンへと南下しながら、パレスチナまでやってきて、定住した人たちでした。

たとえば、妻サラが「カナンの地のキルヤト・アルバ、すなわちヘブロンで死んだ」際、葬る場所がなかったアブラハムは、その地域の土地を所有していたヘト人たちと交渉し、エフロンからマクペラの洞窟を銀 400 シェケルで買っています（創世記 23 章）。ヘブロンはパレスチナ中南部に位置していますので、かなり広がっていたことがわかります。

ダビデ王に忠実に仕えたウリヤ（バテ・シェバの夫）もヘト人でした。ヒッタイトの地を引いていたことがわかります。

## ななめ聖書 先週のこたえ

ぶ	う	ら	じ	と	か	く	え	す
と	え	す	う	く	ら	じ	か	ぶ
か	じ	く	ぶ	え	す	と	う	ら
じ	と	か	く	う	ぶ	ら	す	え
え	く	ぶ	ら	す	じ	う	と	か
す	ら	う	と	か	え	ぶ	く	じ
う	す	じ	え	ぶ	く	か	ら	と
ら	か	と	す	じ	う	え	ぶ	く
く	ぶ	え	か	ら	と	す	じ	う

- ① おおいなるこうけい
- ② はきものをぬげ
- ③ しばのあいだ
- ④ ペリジじん



ケンクレアイそしてエフェソ

パウロは、なお幾日もの間そこに滞在した後、きょうだいたちに別れを告げて、シリア州に向かって船出した。プリスキラとアキラも同行した。パウロは誓願を立てていたので、ケンクレアイで髪をそった。一行がエフェソに到着すると、パウロは二人をそこに残して自分だけ会堂に入り、ユダヤ人と論じ合った。人々はもうしばらく滞在するように願ったが、パウロは聞き入れず、「神の御心ならば、また戻って来ます」と言って、別れを告げ、エフェソから船出した。そして、カイサリアに到着してエルサレムに上り、教会に挨拶してから、アンティオキアに下った。

パウロはしばらくそこで過ごした後、また旅に出て、ガラテヤ地方やフリギア地方を次々に巡回し、すべての弟子たちを力づけた。

(使徒言行録18:18~23)



コリントからの帰路

【ケンクレアイ】

ギリシアと言えばアテネが代表的な町ですが、前述したように、学問の中心ではあっても、勢いにおいてはコリントに及びませんでした。当時は人々がコリントに吸い寄せられるように集まってきたのです。パウロもアテネには約一週間ほど滞在した程度で、早々にコリントへ移動し、コリントでは腰を据えるようにして一年半の間、伝道活動を行っています。

コリントの隆盛を支えていたのはなんとと言っても港です。特異な地形によって北と南に大きな船が入る入り江を持ち、しかも、紀伊半島大もある半島のくびれに位置し、その間の距離は5kmほど。簡単に言うと、名古屋からの荷物を紀伊半島先端の串本沖を通り、大阪に運ばなければならないところを、陸に荷揚げして5km運搬すれば大阪に着くような距離感です。北の港にはヨーロッパ方面からの、南の港にはアジア方面からの荷物が届き、そこで交易も行われていたので、さぞにぎやかだったことでしょう。ですから、その周辺の町もコリントの恩恵を受けていたようです。

ケンクレアイは南港(東洋方面)に近く(約5km)、船を待つ時に便利な宿泊所が点在していたようです。特に外国人向けの宿屋が多かったのではないのでしょうか。ただ、パウロがエフェソ行きの船が来る間の滞在場所に、この町を選んだのには別の理由があったように思います。「ケンクレアイにある教会の奉仕者でもある、私たちの姉妹フェベを紹介します」(ローマ16:1)との挨拶文が残っているからです。つまり、この時点で、すでに信徒の集まりができていて、それを励ますためだったのではないかと推測できます。パウロが来る前に

存在していたのか、コリント滞在中にコリント同様、ケンクレアイの教会も生まれた可能性はあります。一年半も滞在していたのですから、ケンクレアイからも人々が集まり、信仰を持つようになって、教会ができたと考えても不自然ではありません。実際にコリントに戻ってからシリア州に向かって船出したわけですから、わざわざケンクレアイ教会に寄ったことは確かです。

【一行】

さて、エフェソに到着したのは「一行」としかありません。プリスキラとアキラが同行したとありますが、シラスとテモテ、またルカやテトスは含まれていたのでしょうか。

エフェソに到着した時、「二人(おそらくプリスキラとアキラ)をそこに残して自分だけ」とあります。素直に考えれば「一行」は3人だった可能性が高いと言えます。

まず、この18章にはルカの同行を示す「私たち」がありません。なので、ルカはいなかったとみなせます。さらにケンクレアイでのパウロ結願を、新たな宣教の始まりとみると、チームパウロがこれを機に、方々へ派遣された可能性が出てきます。テモテへの手紙やテトスへの手紙を見てもわかるように、パウロは彼らに絶対的な信頼を置いています。彼らの活躍がなければパウロの宣教の芽は早々に摘まれてしまっていたかも知れません。そうすると、ケンクレアイでは、任命式があって、「きょうだいたちに別れを告げた」中に、彼らも含まれていたのではないのでしょうか。

パウロは「命懸けで私を守ってくれた二人」(ローマ16:3)と共にエルサレム、そしてアンティオキアへの帰路についてのでした。

## キリスト教まるわかり Q&A

### ◆何もわからないのですが。

必要なものはお貸しし、一つずつお教えいたします。また信仰の強要はいたしません。

### ◆礼拝とは何ですか。

私たちの悩みは神から離れていることに原因があります。礼拝で神を賛美し、祈り、御言葉を聞くことにより、人間のあるべき姿を取り戻していく、それが礼拝です。

### ◆献金とは何ですか。

神への献身を表すもので、お布施や聴講料、会費ではありません。本人の意志に任されておられ、あくまでも自由です。趣旨のわからない方はなさらなくても問題ありません。

### ◆聖餐式とは何ですか。

信仰告白をし、洗礼(バプテスマ)を受けておられる方のみになりますが、主イエスと共に生きていることを確認する儀式で、聖別された

パンとぶどう液をいただきます。

### ◆信者になるにはどうしたらいいですか。

自分の意志で主イエスの福音を信じ、洗礼を受けることにより教会員(信者)と呼ばれます。

### ◆キリスト教会は様々な教派があります。

大きく分けてカトリック教会とプロテスタント教会があります。プロテスタント教会は、設立された時代や地域、歴史的な背景によって成立が異なるため、多くの教派がありますが、憎み合っているのではなく、互いの特色を認め合い、助け合っています。

### ◆にせのキリスト教会がありますか。

キリスト教の枠組みからずれている教えについて、私たちは異端と呼んでいます。代表的な団体には「エホバの証人」「モルモン教会」「世界平和統一家庭連合」などがあります。特に韓国系キリスト教活動にはお気をつけください。お困りの方は牧師までご相談ください。

## 2025年教会暦・年間行事

(#はその年によって変動します)

「教会暦」はキリストの生涯をたどりながら1年を過ごすために作られました。当教会では教会暦に、継承されてきた伝統的記念日に加え、守っています。

### \*\*\*顕現節(1/6～#3/4)\*\*\*

降誕日(12/25)から12日後に東方の博士がキリストを礼拝した顕現日(1/6)から始まります。降誕されたキリストが世界の救い主であることを覚えて過ごします。顕現節の最終主日は受難の整えをされた変貌のできごとを覚え、変容主日(#3/2)として守ります。

### \*\*\*四旬節(#3/5～#4/12)\*\*\*

前年に使用したしゅろの枝を灰にしてかぶり悔い改めを表した儀式(この教会では行いません)、灰の水曜日(#3/5)から始まります。レントとも呼び、主日を除いた復活日前日までの40日間、キリストの受難を覚えて過ごします。

四旬節に続く受難週(#4/13～4/19)は、主イエスの最後の1週間を覚える週で、エルサレム入城に際し、しゅろの枝を用いて歓迎したしゅろの主日(#4/13)から始まり、洗足と主の晩餐が行われた木曜日(#4/17)、十字架にかかれた受難日(#4/18)と過ごしていきます。

### \*\*\*復活節(#4/20～#6/7)\*\*\*

キリストが死にかけて復活されたことを祝うイースター(復活日・#4/20)から始まります。春分の日後の最初の満月の次に来る日曜日と定められているので、祝日が毎年変動します。40日後のキリストの昇天(#5/29)を迎えたのち、復活節の最終主日(昇天主日#6/1)となります。

### \*\*\*聖霊降臨節(#6/8～#11/29)\*\*\*

復活日から50日目、聖霊が使徒たちに降ったことを記念する聖霊降臨日(ペンテコステ・#6/8)から始

まり、三位一体主日(#6/15)では父、御子、御霊の働きを告白し、過ごします。最も長い節期となります。

### \*\*\*待降節(#11/30～12/24)\*\*\*

救い主キリストの誕生を祝う備えをしながら、待ち望むアドベント(待降節)は、11月30日に一番近い主日から始まります。降誕を祝うクリスマスは12月25日ですが、クリスマス礼拝(#12/21)は、25日以前の日曜日を選んでをささげています。

### \*\*\*降誕節(12/25～1/5)\*\*\*

イエス・キリストの誕生を祝う日(12/25)から始まり、顕現日前日までの期間を指します。

### 【記念日】

母の日(5/11・5月第二)  
ウェスレー回心記念日(5/24・1738年)  
花の日(子どもの日・6/8・6月第二)  
父の日(6/15・6月第三)  
ホーリネス弾圧記念日(6/26・1942年)  
宗教改革記念日(10/31・1517年)  
収穫感謝日(11/23・11月第四)

### 【当教会行事】

新年元旦礼拝(1月1日・水)  
成人祝福礼拝(#1/14・1月第二)  
聖書愛読週間(#3/23～29)  
みふみの日(3月23日)  
教会創立記念礼拝(3月最終主日/創立記念日3/27)  
最後の晩餐集会(#4月17日夕)  
召天者記念合同礼拝(#6/1・6月第二\*今年は第一)  
弾圧記念礼拝(#6月22日・26日前後の主日)  
石出忠師記念礼拝(#7月6日・7月第一)  
敬老祝福礼拝(#9/14・9月第三)  
子ども祝福礼拝(#11/2・11月第一)  
クリスマスイブ礼拝(12月24日夕・水)

## 教会紹介

### ●歴史

私たちの教会は、ジョン・ウェスレーを源流とするメソジスト(青山学院、東北学院など)の信仰を継承しており、メソジストの教職であった中田重治が1901年に創立したホーリネス教会の信仰を受け継いでいます。2022年3月27日に創立いたしました。

### ●教義

旧新約聖書66巻を誤りない神の言と信じ、唯一の正典として信仰生活の規範にしています。また三位一体の神を信じ、イエス・キリストによる以外に救いがないことを告白しています。特色は、下記に紹介する四重の福音を強調していることです。

#### 【四重の福音】

四重の福音は、長老教会の牧師A. B. シンプソンが提唱したものを、ホーリネス教会の創設者中田重治が自らの信仰に基づいた理解を加え、福音宣教の際に掲げた教えです。

人間の幸せは神と共に生きることで実現するのですが、神を認めず生きているため、むなしく日を過ごしているのが現実です。しかし、イエス・キリストが十字架によって神と人との絆を回復してくださったのです。これが福音です。この福音を信じることで、人間は本来もっていた真の幸いを覚えながら、充実した人生を送れるのです。

中田は、聖書に書かれてあるこの福音をわかりやすく語るべく、前述の提唱にある新生、聖化、神癒(しんゆ)、再臨(さいりん)の4項目に基づいて、以下のようにまとめました。

◆**新生** キリストの十字架と復活を信じ、新しく生まれ変わる。これにより、天に住まう者のように、日々喜びが与えられる。(コリントの信徒への手紙2:5:17など)

◆**聖化** 神に属する者であるとの自覚が与えられたことで、自己中心に生きていた心が砕かれ、同時に神中心の生活を求め始め、神のきよさに近づくこと。(ガラテヤの信徒への手紙2:19～20など)

◆**神癒(しんゆ)** 肉体を持っているがゆえに弱る私たちが、神のあわれみにより、病い、そして死の恐怖にも打ち勝つ力が与えられ、苦しみから解放されること。(出エジプト記15:26など)

◆**再臨(栄化)** キリストが再び地上に来られること。その時、死んだ聖徒たちは復活し、生ける信徒は死を経験せずに天に挙げられる。(コリントの信徒への手紙1:15:51など)

## 教会の信条

さがみはら 相模原ホーリネス教会は以下を信条として掲げています。

わたし 私たちはイエス・キリストを救い主として信じています。

主イエスは、「神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」と宣言されてから約3年間、人々にその教えとみわざを通して神の国の恵みを明らかにされ、そののち、私たちの罪を負って、十字架にかかれ、あがないを成し遂げ、神の国にはいる救いの道を開かれました。

この主イエスの救いへの招きに応じて神の国に属して生きる者となった私たちは、聖書が終末と示しているこの時代に、使命を全うすべく、「あなたこそ生ける神の子キリストです」と信仰告白した者たちと共に、神の国の鍵を与えられた教会の一員とされたことを覚えながら、聖霊の助けによって以下のことを宣証しつつ歩みます。

- ①キリストによる完全な救い
- ②真心からささげる礼拝
- ③キリストをかしらとした教会の交わり
- ④神の憐れみによるいやしと慰め
- ⑤信仰生活がもたらす祝福
- ⑥世界にも目を向けたとりなしの祈り
- ⑦神の愛に基づく社会への貢献

## MEMO

## 単立 相模原ホーリネス教会

創立 2022年3月27日

主任牧師 土屋 和彦 牧師 石出 佳代子 牧師 土屋 淳子

252-0205 相模原市中央区小山 3-31-3

TEL&FAX 042(772)8910 e-mail church@bethels.info

ホームページ <http://www.bethels.info/>

